

小川市長・市民不在のまま 1市8町の合併推進を表明

9月13日、9月議会一般質問が行われ、12人の議員が質問しました。笹田トヨ子議員は合併問題、市民病院問題、等4件について質問しました。



合併問題で市民討論会を！

10市町の「30万人中核市構想」が崩れた今、「1市8町の合併」方針を打ち出す前に、大垣市民に説明と意見聴取を行うべきではないでしょうか。市民の中には「子育て日本一」はどうなるのかといった声があります。また新聞報道では、54項目の協議事項を非公開の常任委員会で見直すようですが、水面下の動きで市民には全くわかりません。合併は我が町の将来をきめる重要な問題です。住民意向調査はもちろん、その前に、問題のある財政計画や子育て日本一施策などをテーマに、市民に関われた討論集会を開いてはどうかと提案しました。

答弁・市長「12月から1月にかけて説明会を行い、また各種の団体との市民トークなど行ってきたので、住民意向調査も市民との討論集会も開くつもりはない」と答弁しました。

財政計画に疑問 投資可能財源 700億円も水増し

安八町の離脱で局面が変わった以降も大垣市議会の合併特別委員会一度も開催していません。この間、「投資可能財源の700億円もの水増し」など新市の財政計画に対しておおきな疑問が出ています。「子育て日本一」政策も、それを保証する財源は明らかになっていません。

様々な疑問や問題点に対して、議会でもまた市民へのオープンな討論集会も開かず、水面下で合併を進めようとする市当局や合併協委員のやり方は大垣市民を馬鹿にした

4つの提言 「患者中心の医療」を求めて

急性期治療を行う大垣市民病院の平均在院日数は17日（平成15年度）を切りました。急性期の治療は終わっても、病気が治ったわけではなく、患者さんから退院時の不安がよく出されます。質問では、市民病院の理念である「患者中心の医療」を充実させるための4つの提言を行いました。

- ①退院時には、インフォームドコンセント（十分に説明され理解し納得したうえでの同意）を行い、患者さんの理解と納得に努めること。
- ②患者の声に耳を傾けることを重視し、患者サービス改善委員会の設置など組織的な対応を。また意見箱や患者満足度調査などを更に充実させ、その回答や結果について公表すること。
- ③病診連携を更に進めると共に、患者さんが安心して在宅療養や転院が出来るよう、医師、看護師、医療ソーシャルワーカー、事務職などで支援体制を。

④市民病院に医療ケアの必要な重症心身障害児者のショートステイの設置を。

答弁・事務局長「患者さんに対してインフォームドコンセントに努めること、医療福祉相談室の医療ソーシャルワーカーを1名増員し、医師・看護師・ソーシャルワーカーとの連携を強めること。患者満足度調査を年1回は行い、その結果と意見箱の回答についても病院広報で公表していきたい」など前向きな答弁がありました。しかし、「重症心身障害児のショートステイの設置は難しい」という返事でした。

市民病院は17億円の黒字 心身障害に高度な医療の提供を！

患者の声に耳を傾けることは、市民病院をより良くしていく出発点になります。病院機能評価の再審査が行われる2008年までに、理念で掲げている「患者中心の医療」がより充実して認証されることを期待しています。現在、西濃地域には重症心身障害児のショートステイはなく、岐阜地域の長良病院まで移送しなければなりません。西濃地域で重症心身障害児の医療ケアができるのは大垣市民病院だけです。昨年の市民病院の決算では17億円の黒字を出しています。黒字財政の場合、病院運営は相当自由度がきくはずですが、市民病院の高度で良質な医療を最も必要としている心身障害児に提供してほしいものです。

市会議員 笹田トヨ子

ご意見・ご質問等はこちらへ TEL 81-1383

<http://www.sasada-toyoko.jp/>

e-mail: sanbal@sasada-toyoko.jp